

平成22年4月1日

荷主各位

社団法人 東京都トラック協会
海上コンテナ専門部会
部会長 荒木 俊夫

東京港におけるコンテナターミナル時間外有料ゲートオープン社会実験に関する
荷主アンケート調査結果について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、弊専門部会の活動に格別なるご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊専門部会では、横浜、四日市、名古屋、大阪、神戸 各港において先行実施されているコンテナターミナル時間外有料ゲートオープン社会実験が東京港においても実施を検討されていることを踏まえ、当該社会実験の利用者及び費用負担者として位置付けられている荷主の皆様を対象としたアンケート調査を実施させて頂きました。

荷主各位におかれては、ご多忙のところ本アンケート調査に多数ご協力頂き、誠に有難うございました。

今般、本アンケート調査の取り纏め結果を(社)東京都トラック協会のホームページに掲載いたしましたので、何卒ご高覧の程宜しくお願い申し上げます。

敬具

＜荒木部会長コメント＞

弊専門部会アンケート調査に対し、荷主、海貨事業者より貴重なご意見を多数頂いたことに対し感謝申し上げます。

- ・ 我国に海上コンテナが導入されて40年以上が経つが、全国主要港湾を対象にしたゲートオープン時間拡大の試みは今回が初めてである。それだけのものを行うには荷主、海貨事業者、倉庫、運送事業者等関係者への説明が十分に行われたとは思えず、それは時間外有料ゲートオープンを利用する理由として、荷主・海貨事業者とも貨物の受取を非常に急ぐ場合や、CYカットとの関係よりどうしても当日の搬入が必要となる場合など緊急時の利用が大勢を占めたことから窺える。
逆に港湾局説明で例示された製造ラインの変更を検討するといった恒常的利用を示唆する回答は無く、荷主、海貨事業者には本社会実験目的が十分に浸透していないのではないかとの印象を受けた。
- ・ 恒常的な利用検証のため社会実験期間を3年間の長期にわたり設定するのであれば、関係者に対する説明、調整にも十分な時間を割くべきである。政権が変わったからと言って我国の輸出入競争力に影響を及ぼす問題を港湾局一局の主導で進めるやり方には疑問を感じる。アンケート回答で受益者負担の考え方一つをとっても意見が割れている結果より、荷主に受益者負担の考えが浸透したとする港湾局説明が荷主の総意なのか改めて疑問を感じるところである。
- ・ 我国の輸出入競争力に影響を及ぼす点では、国全体で検討を行うべき問題であり、荷主関係では経済産業省との連携、国交省内でも自動車交通局や海事局など本件関係者を所管する各局との調整が十分に行われるべきである。海上コンテナの物流はコンテナ船、コンテナターミナル、コンテナトレーラの輸送3モードがバランスよく成長することが肝要で、このためには海運/港運/海貨/倉庫/トラック事業者の連携が不可欠である。時間外作業に対し、港運事業者のみ補助金を支給するやり方は、ともに時間外の発生を余儀なくされるトラック事業者にとっては片手落ちで公平性に欠けると言わざるを得ない。
- ・ 東京港においては荷主、海貨事業者の間にも、コンテナターミナルや周辺道路の混雑問題に非常に関心が高いことが窺えた。ゲートオープン時間拡大社会実験よりもまずは混雑解消が先決とする意見が多く、我々トラック事業者の主張に賛同頂けたものと捉えている。
- ・ トラック運送事業者/協会に対しては、もっと発言力を高め行政他関係先交渉にあたるべしとのお叱りを頂いた。これはトラック事業者が疲弊し、今後十分な輸送力提供が行えずコンテナ物流に支障を及ぼすことはまかりならないとの荷主、海貨事業者よりの警告と受け止める。現在のコンテナターミナルゲート前での長時間の並びが続く限り、トラック事業者の体力は疲弊する一方で、折角採用した若手ドライバーも見切りをつけ他業種への転職が後を絶たない。次代を担う若手ドライバーに魅力ある職場として定着してもらうためには弊専門部会として今、何をなさねばならないのかを考えて行きたい。

以上